

グラウト充填不足部補修工法 ―リパッシブ工法―

第2回講習会 開催

過去に建設された PC 構造物の一部に、PC グラウトの性能不足や施工技術の未熟さが原因のグラウト充填不足が報告されております。

特に、塩化カルシウムを含む凍結防止剤が散布される寒冷地では、それに含まれる塩化物イオンが融雪水としてグラウト充填不足部に侵入した結果、PC 鋼材に著しい腐食が生じています。

一般的な塩害対策は、塩化物イオンを含むコンクリートや鋼材表面に発生した錆層の除去が基本ですが、シーす内に位置する PC 鋼材の錆を除去することは困難で PC 鋼材の腐食を抑制することは容易ではなく、その対策が望まれておりました。

当社は神戸大学 森川英典教授のご指導の下、亜硝酸リチウム水溶液を用いた PC 鋼材の腐食を抑制する“リパッシブ工法”を 2011 年に開発しました。

現在までの所、約 27 橋の補修工事に、このリパッシブ工法が採用されています。

グラウト充填不足部の補修は、PC 鋼材の耐久性、すなわち PC 構造物の耐久性を左右すること、再補修が困難となることから十二分に注意を払った施工や品質の確保が必要となることから、昨年よりリパッシブ工法に関する技術講習会を開催しております。

今年も昨年に引き続き、2 回目のリパッシブ工法講習会を開催することが出来ました。

参加した 14 名の受講者は熱心に講習に取り組み、大盛況のうちに終えることが出来ました。

1. 開催

2016 年 8 月 27 日 株式会社ピーエスケー 関東機材センター

2. 参加者

参加会社： 8 社（新規参加会社 2 社）

参加人数：14 名

3. 特別講演

演 題：「既設 PC 橋の鋼材腐食劣化とリパッシブ工法による補修対策」

講演者：国立大学法人神戸大学 大学院工学研究科 森川 英典 教授



特別講演：神戸大学 森川英典教授

4. 講習状況

①



②



講義状況（机上）

2名の講師により、マニュアルにそって講義が行われました。

③



④



講義状況（実技演習）

班に分かれ、模型を使用して模擬施工を体験しました。

⑤



閉会のあいさつ。